



添付文書上にB型肝炎ウイルス再燃の注意喚起のある薬剤一覧

薬効分類	一般名	商品名
免疫抑制剤	アザチオプリン	アザニン錠 50mg、イムラン錠 50mg
	エベロリムス	サーティカン錠 0.25mg、0.5mg、0.75mg
	シクロスポリン	サンディミン点滴静注用 250mg
		ネオール内用液 10%
	タクロリムス水和物	ネオールカプセル 10mg、25mg
		グラセプターカプセル 0.5mg、1mg、5mg
		プログラフカプセル 0.5mg、1mg、5mg
		プログラフ顆粒 0.2mg、1mg
	ミコフェノール酸 モフェテル	セルセプトカプセル 250
		プレディニン錠 25、50
	抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリン	サイモグロブリン点滴静注用 25mg
	グスベリムス塩酸塩	スパニジン点滴静注用 100mg
	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	シムレクト静注用 20mg
		シムレクト小児用静注用 10mg
副腎皮質ホルモン剤	コルチゾン酢酸エステル	コートン錠 25mg
	デキサメタゾン	デカドロン錠 0.5mg
		レナデックス錠 4mg
		デカドロンエリキシル 0.01%
		リメタゾン静注 2.5mg
	デキサメタゾンバルミン酢酸エステル	メサドロン注 2mg、3mg
	デキサメタゾンメタスルホ安息香酸エステルナトリウム	メサドロン注 2mg、3mg
	デキサメタゾンリン酸	デカドロン注射液 1.65mg、6.6mg
	エステルナトリウム	デキサート注射液 1.65mg
	トリアムシノロン	レダコート錠 4mg
	トリアムシノロンアセトニド	ケナコルト-A 皮内用 関節腔内用水懸注 50mg/5ml
		ケナコルト-A 筋注用 関節腔内用水懸注 40mg/1ml
	フルドコルチゾン酢酸エステル錠	フロリネフ錠 0.1mg
	プレドニゾン	プレドニゾン錠 1mg、5mg
		プレドニゾン散 1%
	プレドニゾンリン酸エステルナトリウム	プレドネマ注腸 20mg
	プレドニゾンコハク酸エステルナトリウム	水溶性プレドニン 10mg、20mg
	ベタメタゾン	リンデロン錠 0.5mg、リンデロン散 0.1%
		リンデロンシロップ0.01%
	ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム	リンデロン注 2mg、4mg(0.4%)
ベタメタゾン・セレスタミン配合錠	セレスタミン配合錠	
d-クロルフェニラミンマレイン酢酸	セレスタミン配合シロップ	

薬効分類	一般名	商品名	
抗悪性腫瘍剤	ベタメタゾン酢酸エステル・ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム配合	リンデロン懸濁注	
	ヒドロコルチゾン	コートリル錠 10mg	
	ヒドロコルチゾンコハク酸	ソル・コーテフ注射用 100mg	
	エステルナトリウム	水溶性ヒドロコルチゾン注射液 100mg	
	ヒドロコルチゾンリン酸	ステロネマ注腸 1.5mg、3mg	
	メチルプレドニゾン	メドロール錠 2mg、4mg	
	メチルプレドニゾンコハク酸	ソル・メドロール静注用 125mg、500mg	
	エステルナトリウム	注射用プリドール 40、125、1000	
	デボ・メドロール水懸注	20mg、40mg	
	抗リウマチ剤	エベロリムス	アフィニール錠 5mg
		テムシロリムス	トールセル点滴静注液 25mg
		テモソロミド	テモダールカプセル 20mg、100mg
			テモダール点滴静注用 100mg
		フルダラビンリン酸エステル	フルダラ錠 10mg
		フルダラ静注用 50mg	
ベンダムスチン塩酸塩		トリアキシン点滴静注用 100mg	
メトレキサート		メントレキセート錠 2.5mg	
		メントレキセート点滴静注液 200mg	
		注射用メトレキセート 5mg、50mg	
モガムリズマブ(遺伝子組換え)	ボテリジオ点滴静注 20mg		
リツキシマブ(遺伝子組換え)	リツキサン注 10mg/ml(100mg/10ml)		
抗リウマチ剤	アダリムマブ(遺伝子組換え)	ヒュミラ皮下注 20mg シリンジ 0.4ml、40mg シリンジ 0.8ml	
	アバタセプト(遺伝子組換え)製剤	オレンシア点滴静注用 250mg	
	レフルノミド製剤	アラバ錠 10mg、20mg、100mg	
	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	レミケード点滴静注用 100	
	エタネルセプト(遺伝子組換え)製剤	エンブレル皮下注 25mg シリンジ0.5ml、バイアル	
	ゴリムマブ(遺伝子組換え)製剤	シンボニー皮下注 50mg シリンジ	
	トシリズマブ(遺伝子組換え)	アクテムラ点滴静注用80mg、200mg、400mg	
	メトレキサート	リウマトレックスカプセル 2mg	
	トファンチニブクエン酸塩	ゼルヤンツ錠 5mg	

出典: B型肝炎治療ガイドライン第1.1版(日本肝臓学会)を一部改変

検査要項

検査コード	検査項目	材料	検体量	容器	保存条件	所要日数	検査方法	基準値	診療報酬/区分	保険点数	保険収載名称
0901	HBs抗原精密測定	血清	0.5mL	A1→A2	冷蔵	1~2	CLIA法	0.05未満 IU/mL 陰性	D013-03	88	HBs抗原
0903	HBs抗体精密測定	血清	0.5mL	A1→A2	冷蔵	1~2	CLIA法	10.00 未満IU/mL 陰性	D013-03	88	HBs抗体
0912	HBe抗原	血清	0.5mL	A1→A2	冷蔵	1~2	CLIA法	S/CO 1.0未満 陰性	D013-04	110	HBe抗原
0914	HBe抗体	血清	0.5mL	A1→A2	冷蔵	1~2	CLIA法	インヒビション50.0未満% 陰性	D013-04	110	HBe抗体
0906	HBc抗体	血清	0.5mL	A1→A2	冷蔵	1~2	CLIA法	S/CO 1.0未満 陰性	D013-06	150 ^{*1}	HBc抗体半定量・定量
7029	HBV-DNA定量 TaqManPCR	血漿	3.0mL	YK	必凍	2~5	PCR法 (リアルタイムPCR法)	検出せず Logコピー/mL(注)	D023-03	290 ^{*2}	HBV核酸定量

○ 印: 肝炎ウイルス関連検査において患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。

イ 3項目(290点) ロ 4項目(360点) ハ 5項目以上(484点)

*1 HBc抗体半定量・定量とHBc-IgM抗体を同時に測定した場合は、一方の所定点数を算定する。 *2 HBVコア関連抗原(HBcrAg)をHBV核酸定量と同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

(注) 定量報告下限値未満となった場合の報告

HBVに対して特異的な増幅反応シグナルを検出した場合: 2.1Logコピー/mL未満(定量下限未満のHBVを検出した)

HBVに対して特異的な増幅反応シグナルを検出できなかった場合: 検出せず

* HBs抗原(コード0912)、HBe抗体(コード0914)について、東京、東海、九州、沖縄地区は所要日数2~3日となります。 * HBV-DNA定量(コード7029)について、九州地区は3~4日、沖縄地区は3~6日となります。

免疫抑制・化学療法により発症する B型肝炎対策ガイドライン(2013年版)

監修 名古屋市立大学大学院医学研究科 病態医科学(ウイルス学) 教授 田中 靖人 先生

2013年版の主な改訂ポイント

変更点	該当箇所	従来版	2013年版	関連事項
既往感染者でのHBV DNAモニタリング間隔	フロー	1回/月	1回/1~3ヶ月	治療内容を考慮して間隔・期間を考慮する
HBV DNAモニタリングにおけるエンテカビル投与基準	フロー	検出感度以上	2.1 log copies/mL以上	"2.1 未満[検出]"は陽転化と判断しない
本ガイドラインの対象となる疾患と治療(血液悪性疾患に対する強力な化学療法以外)	補足	その他の疾患の治療	血液悪性疾患または固形がんに対する通常の化学療法、 リウマチ性疾患・膠原病などの自己免疫疾患に対する免疫抑制療法	通常の化学療法および免疫抑制療法におけるHBV再活性化、肝炎の発症、劇症化の頻度は明らかでない
HBV再活性化の高リスク治療	注5 a.	リツキシマブ・ステロイド使用例、 造血幹細胞移植例	リツキシマブ・ステロイド、 フルダラビンを用いる化学療法および、 造血幹細胞移植例	治療中および治療終了後少なくとも12ヶ月の間はHBV DNAを月1回モニタリングする 造血幹細胞移植例は長期間のモニタリングが必要
通常の化学療法のHBV再活性化リスク	注5 b.	(記載なし)	頻度は少ないながら リスクはある	HBV DNA量のモニタリングは1~3ヶ月を目安に治療内容を考慮して間隔・期間を考慮する
副腎皮質ステロイド、免疫抑制療法(含む分子標的治療薬)のHBV再活性化リスク	注5 c.	(記載なし)	リスクはある	免疫抑制療法の開始時および治療内容変更後、少なくとも6ヶ月間は月1回のHBV DNAモニタリングが望ましい

de novo



ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社
〒105-0014 東京都港区 芝2-6-1